技能検定に於ける検定内容詳細

【使用薬剤】NPO法人日本ヘアカラー協会 / 協賛メーカー薬剤使用
（協賛メーカーはJHCAホームページより参照）

★トレーニングクリームを水で希釈、または原液で使用
（薬剤規定に従ってください）

【合格基準】ヘアカラー剤の基礎知識とワンメイクをマスターしている

【内容】　ウィッグを使用しワンメイク
★トレーニングクリーム使用（25分）
①根元1.5センチを残して中間　毛先を塗布（15分）
*その後中間審査5分
②根元部分の塗布（10分）
※①②それぞれ採点させて頂きます。

【塗布量等について】　・認定校での授業で実際に行われている通り、14or15レベルのナチュラル系を用いてバージン毛を９レベルに仕上げる想定で、（同一薬剤、時差、手順、塗布量のみで行う最も基本的な想定とする）

【ウイッグについて】
・ウィッグ（レジーナ337S　2016年以降製造のもの、またはEX-7 ）を使用のこと
・台座下の位置でワンレングスカット、ノーセニング
・ドライ、４セクション、ダッカールでとめている状態からスタートします。（新ヘアカラー入門P28の４セクション参照）

毛先塗布手順について

スタート前の４セクションと毛先の塗布について

◇塗布手順の詳細

セクション 1 のネープから厚さ２センチのスライスをオンベースで引き出し、根元1.5センチを空けた位置から薬剤を塗布します。

・ハケの角度は６０度から０度に徐々に寝かせながら進み、毛先まで伸ばすこと。

・毛先はハケを左右にスライドさせて裏面までしっかりと塗布すること。（新ヘアカラー入門P31-05参照）

・余計な場所（根元等）に薬剤が※つかないように、塗り終えた各パネルはふんわり重ねること。（新ヘアカラー入門P31-07参照 ※つぶれないような浮かせかたについて P32-11参照）

・ステムはどのパネルもオンベース。トップはパネルをしっかりと引き上げ、根元1.5センチ空けた位置から裏側もまんべんなく、毛先まで塗布します。（ヘアカラー入門P32-14参照）

・バック 1 2 の３パネル目からはスライス幅が広くなるので３分割して塗布します。（新ヘアカラー入門P31-03,04参照）この際、利き手に問わず、両ネープとも真ん中→右→左の順に塗布します。（頭の丸みに沿ってハケの角度も意識します。）

・サイド 3 4 上のパネルはスライス幅が広くなるので３分割して塗布します。（新ヘアカラー入門P32-12参照）この際、利き手に問わず両サイドとも真ん中→右→左の順に塗布します。（頭の丸みに沿ってハケの角度も意識します。）

根元塗布手順について

中間チェック後、あくまでセクションの目安です。(※事前にセクションをとる訳ではありません)
９セクションをイメージして塗布します。

◇塗布手順の詳細

・９セクションをイメージし ❶❷❸❹❺❻ の順に図の斜めスライスで根元を塗布します。
・ヘムラインはパネルを上に引き上げて裏側も生え際ギリギリを塗布します。
・顔や首に薬剤がつかないように細心の注意を払います。（新ヘアカラー入門P32-23 P33-25参照）

・セクション ❼❽ は上から下に向かって横スライスで塗布します。
・パネルの広い部分は２つに分けて富士額側→奥の順に塗布します。（左図参照）
・各セクションは先に周りを塗布しても、スライスごとに塗布後セクション周りを塗布しても構いません。
（塗布漏れがないようにしてください）

富士額側→奥の順に塗布し、パネルの裏側も同様に塗布します。
頭の丸みに応じてハケの角度も意識します。
（富士額は明かるくなりにくい場所なので、塗布量にも注意します。）

クロスチェック塗布手順について

◇塗布手順の詳細

・クロスチェックの塗布に入ります。バックのネープから逆の斜めスライスを取ります。
（新ヘアカラー入門P29 パターンE参照）
・塗布後にハチ下と一つにまとめたハチ下が別れます。（新ヘアカラー入門P33 項目34.35参照）

・ハチ周りは薬剤がたまりすぎないように注意しながらクロスチェックを行います。
・塗布後はコーミングをして撫で付けたり、後で刷毛で調節せずに行えるように刷毛と、
刷毛とは逆の手をうまくコントロールし行います。

・シングルスターの課題である14Lvから15Lv（ナチュラル系のもっとも明るいシェード）で
塗布量と時間差のみでツータッチで9Lvに仕上げる想定で行います。
（根元が潰れ過ぎない、最初に塗布した毛先の薬剤を取らないなどの注意をしながら施します）

・チェックのスライスの幅は約1.5から２cmの厚さで行います。
（中間毛先の厚さより薄く、根元より厚くて構いません。あくまでチェックの要領で行います）